



平成18年度廃棄物学会総会開催案内

廃棄物学会誌第 17 巻第 1 号にて告示のとおり、平成 18 年度廃棄物学会総会を下記により開催いたします。会員各位の積極的なご参加をお願いいたします。

1. 開催日時：平成 18 年 5 月 23 日（火）
- | | |
|-------|-------------|
| 総 会 | 17:15～18:15 |
| 表 彰 式 | 18:20～18:40 |
| 懇 親 会 | 18:50～20:00 |

2. 開催場所：川崎市産業振興会館

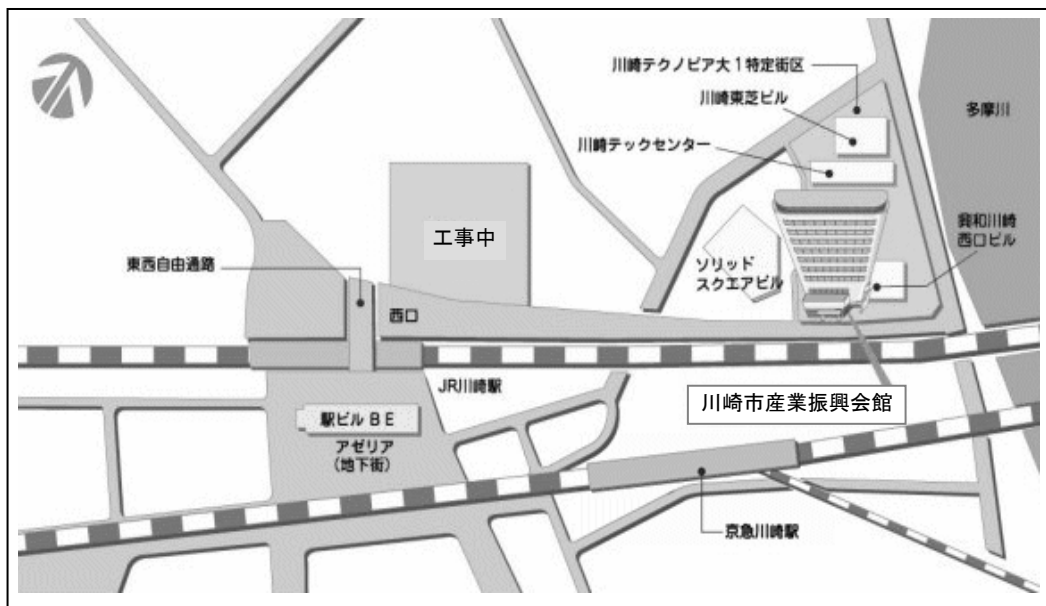
総会は、学会の事業活動と運営について、会員各位にご審議いただく最も重要な会議です。

今回は、平成 17 年度事業報告と決算報告、平成 18 年度事業計画(案)と予算(案)のほか、先の選挙結果(次頁参照)に従って、会則第 13 条の規定にもとづく第 9

期の役員(理事・監事)の選出をお願いいたします。

ご都合でどうしても参加できない正会員の方は、別途送付いたしました総会資料に綴じ込んである委任状の提出をお願いいたします(5 月 22 日必着)。総会の成立要件として、会則第 25 条の規定により、正会員の 4 分の 1 の出席が必要とされておりますので、ご協力をお願いいたします。

総会終了後には、平成 17 年度廃棄物学会賞表彰式、懇親会を開催しますので、併せてご参加をお願いいたします。なお、廃棄物学会誌第 17 巻 2 号の研究討論会参加案内で、ご案内しておりました日韓交流協定調印式は、準備の都合により、延期することとなりました。新しい日程は、決まり次第ご案内いたします。



平成18年度 廃棄物学会研究討論会開催案内

開催日時：平成 18 年 5 月 23 日（火）～24 日（水）

23 日	10:00～16:50
24 日	9:30～16:45

開催場所：川崎市産業振興会館（総会会場と同じ）

参 加 費：正会員、公益・賛助会員所属の方、
共催、協賛学会会員；3,000 円
学生会員、登録団体市民会員；1,000 円
非会員；5,000 円（当日、入会できます。）

参加申込方法：当日、会場に備え付けの参加申込書に必要事項を記入し、該当する参加費を添えて申込み下さい。

※総会へのみの出席は無料です。

※懇親会への参加には別途費用が必要になります。

詳細については、すでにお送りしております学会誌第 17 巻第 2 号に掲載の開催要領、または学会ホームページをご覧ください。

平成 18 年 3 月 18 日

第3回廃棄物法制度に関するセミナー開催報告

平成 18 年 3 月 18 日(土)、京都大学において廃棄物・リサイクルに関する最近の動向および今後の行方をテーマとした「第 3 回廃棄物法制度に関するセミナー」を開催した。小雨の降るあいにくの天気であったが、学生も含め 103 名の参加者が、熱心に聴講した。

今回で3回目となる本セミナーでは、第1回、2回に引き続き由田秀人氏（環境省）にご講演をいただいた。講演は「廃棄物問題の歴史」、「廃棄物対策の改革」、「今後の展望」の3部構成で進められ、聴講者にとって理解し易い内容であった。

第1部の冒頭テーマ“廃棄物をめぐる15年間の変化”は、由田氏が環境省で廃棄物行政に携わってきた歴史そのものであった。豊島や東北地方での不法投棄問題、ダイオキシン関連法整備や廃棄物処理法の改正の意図などを自身の体験談も含め情熱的に説明いただいた。

第 2 部ではこれまで制定してきた各種リサイクル法の内容や PCB、アスベスト対策について説明があった。また、バーゼル法についても言及されるなど多岐に渡った内容であった。

第3部ではG8の場で3Rイニシアティブについて日本がリーダーシップを発揮する意義や東アジア地域での

循環型社会の構築を一層推進していく取り組みについて説明があった。

講演後の質疑の時間も十分に確保していただき、会場から活発な質疑があった。参加者にとって、非常に有意義で今後の活動に役立てることができるセミナーであったと確信する。（関西支部 竹田航哉 記）



▲ 講演の様子

市民フォーラム

平成 18 年 3 月 25 日

「廃棄物のリサイクルと安全な最終処分」開催報告

東海・北陸支部主催の市民フォーラム・総会が、3月25日に名古屋都市センターにて開催された。

今回の市民フォーラムでは、最終処分場周辺の環境汚染が危惧され、新たな処分場の建設が困難になる中で、安全な最終処分の維持管理はどうあるべきか、また不法投棄や埋め戻し材等のリサイクル品の安全性などが社会問題となっている現実をどう考えるかをテーマとした。各界からの 4 名に話題提供を頂き、講演者と参加者を交えてパネル討論会を行った。

まず、大家清紀氏（福井資源化工(株)）から福井県産業廃棄物処理センターの稼働現況と福井県における不法投棄の現状・課題について話題提供があった。続いて、林清比古氏（愛知県環境部）からは、愛知県における廃棄物最終処分の現況と、特にフェロシルト問題への取り組みについて詳しい説明があった。午後の話題提供では、石渡正佳氏（千葉県印旛地域整備センター）から「産廃のアウトローの構造」と題して、各種廃棄物のリサイクルと不法投棄との二重構造の現実と問題点について、具体的事例を示しながら報告があった。さらに、柳瀬龍二氏（福岡大学）からは、最終処分場の維持管理の目的と安全な埋立方法（日常及び定期管理、モニタリング等）に関する解説があった。最後のパネル討論会では、藤江幸一氏（豊橋技術科学

大学)がコーディネーターとなり、廃棄物のリサイクルと安全な最終処分のあり方をめぐりフロアからの質問と話題提供者のコメントによる熱心な討論が行われた。いずれも市民にとって地域の安全・安心に係わる関心の高い問題であり、フォーラムには約50名余りが参加し、盛会のうちに終了した。

その後、東海・北陸支部の総会が開催され、新支部長に鈴木憲司氏（名古屋大学）を選出した。

(東海・北陸支部 伊藤秀章 記)



▲パネル討論会の様子

【お知らせ】

関西支部主催 市民と学生のためのセミナー 「めぐる 世界のモノとごみ」

開催日時：平成 18 年 6 月 10 日（土）13:30-16:45
 開催場所：大阪市立大学 文化交流センターホール
 参加費：1,000 円（C & G10 号持参の方は 500 円。）
 定員：100 名
 申込方法：「市民と学生のためのセミナーに参加希望」と明記の上、住所、氏名、連絡先（TEL、E-Mail アドレスなど）、C & G10 号の要・不要を記入し、E-Mail、FAX、ハガキにて申込先へ送付する。
 申込締切：平成 18 年 5 月 26 日（定員になり次第締切）
 申込先：〒530-0051 大阪市北区太融寺町5-15 梅田イーストビル3 階（財）廃棄物研究財団 大阪研究所（担当：木川・宮田）
 TEL：06-6363-3481 FAX：06-6363-3482
 E-mail：o-seminar@jwrf.or.jp
 詳細：http://www.jswme.gr.jp/kansai/

独立行政法人国立環境研究所公開シンポジウム 2006 「アジアの環境と私たち —もう無関心ではいけない—」

（1）京都会場
 開催日時：平成 18 年 6 月 4 日（日）12:00-17:00
 開催場所：シルクホール（京都市下京区）
 定員：約 700 名
 （2）東京会場
 開催日時：平成 18 年 6 月 18 日（日）12:00-17:00
 開催場所：メルパルクホール（東京都港区）
 定員：約 1,200 名
 【共通事項】
 参加費：無料
 申込方法：参加希望会場、住所、氏名、年齢、職業、連絡先（TEL、FAX、E-Mail 等）を HP（下記）にて登録、または E-Mail、FAX、ハガキにて申込先へ送付する。
 申込先：〒105-0003 東京都港区西新橋 1-7-2
 虎ノ門高木ビル（株）インターグループ内
 国立環境研究所公開シンポジウム 2006 登録事務局
 TEL：03-3597-1129、FAX:03-3597-1097
 E-mail：nies2006@intergroup.co.jp
 http://www.nies.go.jp/sympo/2006/index.html

会 員 状 況	
	H18.3.31 現在 () 内は、H17.4.1 以降の増減
正 会 員	3,313 (-120)
学生会員	314 (8)
外国人会員 (DM)	25 (3)
登録団体市民会員	4 (1)
公益会員	109 (0)
賛助会員	171 (-4)
計	3,936 (-112)

注) 外国人会員 (DM) は、廃棄物学会外国人等会員規程第 4 条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No. 92 平成 18 年 5 月 10 日発行
 廃棄物学会 〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F
 Tel. 03-3769-5099 Fax. 03-3769-1492
 http://www.jswme.gr.jp



印刷媒体は古紙配合率 100%再生紙を使用しています

JSWME Newsletter No.56 (April)

発行のお知らせ

英文ニューズレター第 56 号が発行されました。
 ※JSWME NEWSLETTER は 41 号より電子配信のみとなっています。
 最新号、バックナンバーは学会 HP から入手できます。

(主要目次)

廃棄物技術動向 : 東京 PCB 廃棄物処理施設の完成
 廃棄物分野の ODA : フィリピンへの JICA 専門家派遣と技術協力概要
 自治体事業紹介 : 日野市における「マイバッグ運動」によるレジ袋削減

The contents of No.56

- 1 Dear Waste Management Experts
- 2 Brief note on SWM in Japan:
 - The PCB Waste Processing Facility of Tokyo Block Completed
- 3 Japan's ODA on SWM:
 Dispatching of Individual Expert for SWM in the Philippines
 - Key Technical Cooperation Scheme of Japan -
- 4 Japanese Municipalities on the Move:
 - Efforts to Reduce Plastic Shopping Bags through "My Bag Campaign" in Hino City -
- 5 Contents of Journal of the JSWME, Vol.17, No.2 (March, 2006)
- 6 Cartoons by High Moon:
 "There would be wastes generated after affairs."

☆☆事務局だより☆☆

わたくし、廃棄物の研究を始めてからやっと（もう？）10 年が過ぎました。初めは見知らぬ世界で抵抗を感じましたが、次第に面白くなり、今では飽きることなく続けられています。というのは、廃棄物のことを考えると興味のすそ野がどんどん広がってゆくからです。わたくしは工学出身ですが、科学技術のみならず法律や経済、社会や歴史などの知識を積極的に取り込んで実践していかないと説明できないことや解決できないことがたくさんあります。また、循環型社会の形成のためには、廃棄物問題をより上流側へ、より世界へ、またより総合的な政策へと広げてゆくことが重要です。そのための研究交流の場が廃棄物学会であり、学会の真の活性化とは、これまで他の分野で研究や仕事や活動をしていた方々を廃棄物の世界へどしどしと引き込むことだとわたしは思います。そのためには、今廃棄物を研究している者が他分野に踏み込んでゆく勇気と、他分野の方々に廃棄物研究の魅力を伝えることが課題で、この学会ニュースがその一端を担えればと思います。廃棄物の研究は、やれば必ず役に立つ社会との強い絆がよいところだと感じています。

(山田正人 記)



次号（学会ニュース No. 93）は 6 月 30 日発行予定です。